

# 下大和田谷津田だより

2003年12月号

## 第30回谷津田プレート・プロジェクト(YPP) 谷津田の暮らしたんけん 11月29日 雨

これまでに2年半の間で1度しか雨に降られたことがなかったYPPですが、今回はあいにくの雨。驚いたことにそれでもたくさんの子どもを含む17名の参加者があり、暮らしたんけんをしました。まずはいつもの田んぼから南に歩いて、猿橋という集落を散策。真っ黄色に色づいたイチョウの大木や柿の木の後ろに谷津田をのぞむ風景は見事で心とむものがあります。今は放棄田がほとんどですが、ひと昔前は田んぼの実りを心待ちに暮らしていたことでしょう。竹林の中にある権現神社は小さなお堂があるだけですが、人が訪れている形跡があって地元の方の拠り所となっている様子でした。雨が少し強くなってきたので、車で周辺の神社、お寺を見に行きました。下大和田の産土神として正月と秋にお祭りが行われている鹿殿(かのと)神社には狛犬のかわりに一對の鹿の石像がありました。境内にはお稲荷さんや子安神社もあり、大切に守られている様子です。いつもの田んぼのすぐ北の中野町では、本城寺と八幡神社を訪れました。本城寺は中野城趾に開かれたお寺で、しっとりとした落ち着いた雰囲気の中でお弁当を食べ、住職さんにお寺の解説をしていただきました。最後に行った八幡神社は中野町の中心的な神社で、毎年お祭りが開かれているそうです。立派なシイや杉の木がある境内の裏からは鹿島川の周りに広がる田んぼを見下ろすことができます。

雨の中、子どもたちは足元がびしょびしょでしたが、楽しい散策でした。谷津田と人々の暮らしについては、これからも地元の方のお話を伺ったりして、いろいろと調べてみたいと思います。

(参加者：大人10人・小学生5人・乳幼児2人、報告：高山邦明)

## 第46回「下大和田谷津田の 観察会とゴミ拾い」報告 11月2日 晴れ

開花植物ではキク科植物が目立ちましたが、ほかのものはだんだん少なくなってきました。種子・実はサンショ、サラシナショウマ、ウラシマソウ、タコノアシ、ほかさまざまなものが楽しめました。

開花植物：カントウヨメナ、ノコンギク、ヒメジョオン、オオアレチノギク、セイタカアワダチソウ、コメナモミ、ハキダメギク、タカサブロウ、コシロノセンダングサ、タウコギ、タイアザミ、セイヨウタンポポ、ノゲシ、オニノゲシ、アキノノゲシ、ヤクシソウ、キツネノマゴ、トキワハゼ、スズメノトウガラシ、キクモ、シロツメクサ、ゲンノショウコ、カタバミ、タネツケバナ、ノミノフスマ、ウシハコベ、ミゾソバ、イヌタデ、ヤナギタデ、ジュズダマ、ツユクサ、オオハナワラビ(胞子葉)。昆虫：キタテハ、キチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、オオアオイトトンボ、エンマコオロギ、コバネイナゴ、ツチイナゴ、オオカマキリ、ホソヒラタアブ、ゴミムシsp、オオヒラタシデムシ。

鳥：モズ、ヒヨドリ、ホオジロ、スズメ(群)、エナガ、カケス、シジュウカラ、ハシブトガラス。他生物：ニホンカナヘビ、ニホンアカガエル、メダカ、マルタニシ、アメリカザリガニ。

(参加者：大人3人 報告：網代春男)

## 下大和田季節のたより

11月1日 アソ原のあちこちから冬鳥アマガシの「フッ、フッ、フッ」の音が聞こえてくる。

11月2日 古代米の稲刈り。赤米の田んぼでアマガシの巣が見つかり、親の姿も。

11月8日 ちば・谷津田フォーラム主催のこども環境講座が開かれ、子どもたちで谷津田がにぎわう。丸々と太り、まっ赤なお腹のアマガシがはねていた。

11月15日 古代米の脱穀作業。

11月 日 高校教諭による生物調査

11月22日 冬鳥のツグミやアマガシが登場し、冬鳥が出揃う。

(報告：高山邦明)

いよいよ季節は秋から冬へ。下大和田周辺ではもう霜が降りたようです。冬枯れが進む谷津田にはたくさんの冬鳥たちが渡ってきてにぎわいを見せています。今年も一年お世話になりました。来年もよろしくお祈りします。

高山邦明